

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和1年12月5日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694300106
法人名	社会福祉法人 椎原寿恵会
事業所名	グループホーム椎原館
所在地	鹿児島県南九州市川辺町中山田1892番地 (電話) 0993-58-9391
自己評価作成日	令和元年 11月 6日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和1年11月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○平成29年11月1日に法人の移管に伴って、「医療法人 椎原会 高齢者グループホーム椎原館」から「社会福祉法人 椎原寿恵会 グループホーム椎原館」と名称を変更し、新事業所として開設。

○建物には、冷暖房の効率を高める断熱材を使用している。浴室にも暖房を設置。台所は、作業台が独立して入居者様と対面できるアイランドキッチンである。敷地内に畑もあり、季節の野菜や花を育てており、入居者様に楽しんでいただいている。

○こども園が隣接しており、お遊戯会や芋掘りなど、行事を通して交流させていただいている。地域との交流を深め、温かい家庭的な雰囲気の中で、入居者様が毎日の生活を楽しく過ごしていただけるよう支援していく。

○季節の行事食やドライブなど通じて、四季を感じて楽しんでいただく。

○協力医療機関である「医療法人 椎原会 有馬病院」と連携して、入居者様の健康管理を行っている。訪問診療(月2回)、訪問看護(週1回)があり、有馬病院と24時間の連絡体制をとっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念を玄関とリビングに掲示し、毎朝職員全員で唱和することで意識付けを図り、日々の支援につなげている。理念には、家庭的な雰囲気や地域の中で過ごせることや、利用者の気持ちに寄り添い接すること、人格の尊重についての文言が盛り込まれており、特に、「優しい気持ちを持ってあなたの気持ちを考えながら接していきます」を重要視し、日々の支援につなげられるよう努めている。

身体拘束廃止については、内部研修と同法人のグループホーム合同での全体研修を定期的実施し、身体拘束をしないケアについて話し合われている。施錠をしない自由な生活を支援できるよう、職員はさり気なく見守りを行っている。また、利用者に待ってもらいたいことを伝える場合には、待ってもらいたい理由を丁寧に、また具体的に説明するなど、気を配りながら声をかけるようにしている。

献立は食事検討委員会が1か月分立てているが、誕生日には好きなものが食べられるよう献立に組み込むようにしている。アイランドキッチンのため、利用者が自由に調理に参加できるようになっており、野菜の皮むき等の調理の下ごしらえや、包丁を使用する利用者もおり、利用者と職員が一緒になって調理を行っている。菜園では、ピーマンやエンドウ、人参、玉ねぎ、さつま芋を育てており、利用者と一緒に収穫して食材として利用している。芋掘りは、隣接するこども園の園児と一緒にいき、楽しい時間を共有することができた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	入居者様に寄り添うことを理念の中心に盛り込み、毎日朝礼時に全職員で読み上げて共有しており、実践につなげる努力をしている。	理念を玄関とリビングに掲示し毎朝唱和をして意識付けを図っている。特に理念の「あなたの気持ちを考えながら接する」ことを大切に、生活歴などこれまでの背景を考慮した上で支援していきたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接するこども園と行事を通して交流している。運営推進会議には、地域の民生委員二名、公民館館長に参加を依頼している。	隣接するこども園とは、お遊戯会に来てもらったり、夏は一緒にスイカ割りを楽しんでいる。また、十五夜会では園児達の相撲を見学に行くなど、相互に交流している。また、地域の太鼓踊り見学や散歩の際に地域の方々と挨拶や会話を交わしている	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	事業所として、地域の方に認知症の理解を深めていただける活動ができていない。事業所の力を地域に生かせる方法を模索中である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族、地域の方、行政にご参加いただき、事業所の現状を報告して、ご意見をいただいている。介護サービスにそのご意見を反映できるように努めている。	会議には家族や民生委員、公民館長や行政職員等が参加しており、入居者の情報や活動内容を報告している。また、権利擁護や身体拘束廃止についての勉強会を組み込むなど、毎回何らかの議題を設け話をすると共に、出された意見をサービスに反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の参加、介護保険の各種手続き、入居者様の貢献開始の申立てなど、様々な場面で事業所より連絡、相談をして、ご協力いただいている。</p>	<p>行政とは運営推進会議で顔を合わせるほか、集団指導や書類提出時、相談事がある時に出向き意見をもらっている。また、成年後見人制度を利用するにあたり、地域包括支援センターの協力を得るなど連携を図ることができた。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>勉強会で身体拘束について知識を深め、拘束しないケアを実践している。身体拘束廃止に関する指針を作成している。やむを得ず行う場合は、本人・家族へ説明して同意を得て、経過を記録する。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置し、年2回研修会を実施するほか、法人のグループホームと合同での研修会も定期的に行っている。転倒予防のため職員が早く気付けるよう、本人家族の同意の上で人感センサーを使用しているケースがある。日中は自由な生活を支援するため玄関は施錠しておらず、職員間での見守りを徹底させている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法等について、勉強会で学ぶ機会を設けている。利用者様の状態について気になることがあれば、管理者に報告を行う。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>過去に制度を活用した利用者様があり、市町村と連携している。その支援と合わせて、全職員と学ぶ機会を設けたが、理解がまだ不十分である。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約内容について、書面を使いながら、分かりやすい説明に努める。適宜、不明点がないか確認して、時間をかけて説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様・ご家族からの要望があれば、管理者より全職員に伝え、場合によっては会議で話し合う。外部者への表せる機会として、運営推進会議で必要に応じて報告する。</p>	<p>利用者からは日々の会話から、家族からは面会時に意見や思いを尋ねている。また、敬老会の時に家族にも参加してもらい一緒に過ごしてもらったり、毎月、請求書を送付する際に、コメントを添え、写真を同封して近況を伝えることで、意見や感想をもらう機会につなげている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議で、設置している検討委員会の担当職員の提案を話し合ったり、個別に業務改善の意見を出し合ったりしている。</p>	<p>意見はその都度出してもらったり、職員会議や、必要に応じて話を聞くようにしている。また、「個人目標シート」の確認のため、経営者による個別面談を定期的実施している。勤務表作成時には、希望する休日を伝えることができ、可能な限り叶えられるよう調整している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>キャリア基準書など、法人で昇給の仕組みが整えている。また、新たな人事評価制度が始まっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員会議で勉強会を行う他、法人内、グループホーム連絡協議会等の外部研修会に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流の機会として、グループホームや地域密着型の連絡協議会がある。職員を含めて、その関係性作りが課題である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所の見学・面談の機会や居宅ケアマネより情報収集を行い、本人の生活歴、心身状況、思いの理解に努める。 入居後は馴染みの関係作りに努め、本人に寄り添った声掛け・傾聴を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、本人に対する家族の思いをお聴きする。相談しやすい関係作りに努める。 ご家族が来館時に、職員よりコミュニケーションを積極的にとる。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の本人の心身状況、思い、その他の情報と合わせて、当事業所で提供できるサービスをお伝えする。 必要に応じて、行政、その他のサービスについての説明、案内を行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを汲み取りながら、同じ目線で一緒に家事活動等に取り組み、時に職員が本人に寄り添うことで、関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、本人のご様子を写真と共に書面で、ご家族に報告している。面会や手紙、外出などご家族にご協力いただき、共に本人を支えられるように連携を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力や外出などにより、馴染みの人や場所との関係が継続するように努めているが、改善が必要と考えている。	これまでの馴染みの関係を、本人や家族から聞き取り、基本情報にまとめている。電話や手紙の取り次ぎはしているが人員の面から、家族の協力が得られないと、個々の外出は難しい状況にある。自宅に帰りたい希望がある際は、家族と協力して支援につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや談笑等で、利用者様同士が楽しく交流できるように、職員が間を取り持つ支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様、ご家族、ご利用中の事業所等から、相談、支援の希望があれば応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に寄り添いながら、その思いや意向の把握に努めている。把握する方法を個別に工夫する。全職員で共有して、本人本位のケアを目指す。	思いをうまく表現できない場合は、表情や行動を見て、どのように支援したらよいかを考え支援につなげている。把握した内容は、職員が自由に記入、閲覧できる「申し送りノート」に記録することで情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族との面談による情報収集、居宅ケアマネからの情報提供により、これまでの情報を得ている。必要に応じて、利用者様、ご家族から更なる情報収集を行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録、バイタル測定等により、一日の過ごし方や心身状態を把握している。様々な活動を通して、その方の有する力を見極め、個々に合った活動を提供する。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思い、生活状況や心身状態、職員の意見、主治医意見書、認定調査結果等を勘案して、明らかになった課題を分析して、介護計画を作成している。	本人家族の意向を基に、毎月の職員会議で利用者全員の状態等、近況を確認し合い、医師や看護師の意見も参考にしながら介護計画を立てている。医師からは訪問診療時に意見を求めたり、主治医意見書を参考にし介護計画に反映させている。また、状態が変化した場合等には、随時カンファレンスを行い、現状に即した介護計画に作り直している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活のご様子や心身状態について、個別に記録している。申し送り、会議でその情報の共有化を図り、今後のケアについて話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに合わせて、家族の協力をお願いしながら、柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所としてはこども園との交流はしているが、利用者様個別の地域資源の活用は少ない。連携及び協力できる地域資源の発見が課題である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の同意を得て、訪問診療を行う協力医療機関をかかりつけ医にしている。受診は、家族、職員が付き添う。必要に応じて、かかりつけ医が専門医の紹介を行う。	利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けるほか、週1回の訪問看護も利用しており、日々の安心につながっている。受診の内容は「申し送りノート」に記録し、申し送り時やその都度確認することで共有を図っている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	24時間体制で、利用者様の心身状態に異常があった場合、訪問看護師、もしくは協力医療機関に連絡し、指示を仰ぐ。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	病院関係者に利用者様の生活状況、心身状態等の情報を提供している。病院関係者との連絡を頻繁に取り合い、利用者様の現状を確認して、今後について病院関係者と検討する。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居時に事業所の方針を説明している。重度化しても可能な限り、本人、家族の意向を取り入れて、サービスを提供する。当事業所での対応が困難になった場合、家族、医療職に相談して、今後について検討する。	入居時に、看取りに関する考え方を含む「医療連携体制の指針について」を説明し、同意書まで交わしているが、重度化や看取りに関する指針に該当する内容が明文化されていない。医療処置を必要としない状態であれば可能な限りホームで過ごせるよう支援したいと考えており、今後、看取りに関する指針の作成を検討している。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	マニュアルはあるが、事業所全体で実践力が不十分な状態である。応急処置法、救急蘇生法など定期的な訓練を計画する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署職員立会いの避難訓練を実施している。夜間想定 of 訓練ができていないため今後計画する。民生委員、公民館に協力を依頼しており、今後は近隣の方にもお願いする。</p>	<p>年2回防災訓練を実施しているが、地域に協力や参加の呼びかけをしていないため、今後は近隣との関係作りに努め、万が一に備えた体制作りを整備したいと管理者は考えている。備蓄は災害用の食料品を約3日分程度用意し、ランタンや懐中電灯等を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間、人生の先輩としてその人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉遣いを意識している。	個人情報の取り扱いについてや接遇、プライバシーに関する研修会を実施しており、日頃よりトイレ誘導の際の声のかけ方や、ポータブルトイレを使用しない時は、人目に付かないよう保管庫で管理するなど気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表しやすい雰囲気を作りながら、自己決定が必要な場面で本人に分りやすい説明を行い、自己決定ができるように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の場としての流れになることが多いため、限定的でもできるだけ本人のペースで過ごせるように支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類の調整や道具を用いた整容など、ご自分だけでできないところを支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に意欲がある時、職員と一緒に食事の準備に参加していただく。畑の野菜を収穫することもある。食事前は、職員が献立を説明する。季節ごとに行事食を計画している。	食台拭きや配膳下膳、米とぎや調理の下ごしらえを利用者と一緒に行うほか、包丁を使用し調理に参加する利用者もいる。誕生日に食べたい物が食べられたり、季節や行事に合わせたメニューを提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、形態を個別に準備する。食事量、水分量は、毎回記録して把握している。水分が少ない利用者様には、声掛けして勧めたり、ゼリーを準備する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。職員は利用者様の口腔内の状態を確認して、必要があれば仕上げを行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握して、利用者様を適宜トイレへ案内している。できるだけ、布パンツの使用をお勧めしている。	排泄チェック表を参考にしながら、排泄パターンを把握すると共に、トイレに行きたい素振りを見逃さないよう努め、随時トイレ誘導を行っている。日中はなるべくトイレでの排泄を基本とすることで、リハビリパンツやパットに頼らずに過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を記録している。起床時、乳飲料など飲んでいただいている。状況によって、医療職に相談し、薬による排便コントロールを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週に3回で、昼寝後にバイタル測定してから、お一人ずつ案内している。職員と1対1で交流しながら、入浴を楽しめるように支援している。	希望があればいつでも入浴は可能であり、気持ちよく入浴できるよう、入浴剤を用いたり、菖蒲湯やゆず湯等、季節感を大切にしている。入浴後はスポーツ飲料や牛乳、お茶など好みの飲み物が選べるようになってきている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動が負担にならないようにして、状況に応じて休息していただく。就寝時は、利用者様個々のタイミングに合わせて、居室へ案内している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は確認しているが、その理解が不十分で改善が必要。服薬の直前に、職員が薬の表記を読み上げて確認する。手渡し、口に入れるなど、利用者様に合った支援を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	脳リハ、歌唱、散歩、ドライブなどのレク活動や調理、清掃などの家事活動に参加していただき、楽しみ、役割を持てるように支援している。個別支援が課題である。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然観賞のドライブなど、外出の機会を増やしている。本人に希望があれば、家族と協力して、可能な限り対応する。地域との協力関係は不十分。	初詣や季節毎の花見、海浜公園や知覧のからくり人形見学等、季節に合わせて出かけるほか、天候やその日の気分に応じてドライブに出かけるなど自由に過ごしている。現在、車椅子を使用する利用者がいないこともあり、法人のワゴン車を借りて全員で外出することができ、外気浴や利用者間の交流を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金は事業所でお預かりしているが、所持することで精神的に安定する利用者様もいらっしゃるの、柔軟に対応している。本人の希望があれば、買い物支援を行う。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人に電話の希望があれば、事業所より電話を掛けていただく。季節ごとにハガキを準備して、ご希望する宛先へ送れるように支援する。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間には、季節の花、利用者様が手作りした作品、行事・外出時の写真等を飾っている。利用者様が不快にならないように、こまめな温度・湿度調整、清潔の保持に努めて、居心地のよい空間づくりを心掛けている。</p>	<p>リビングは掃き出し窓のため明るく開放的であり、廊下には行事や外出時の写真が掲示されており、日々の様子がよくわかる。日中使用しないポータブルトイレは来訪者の目に付かないよう保管庫に片付けられている。アイランドキッチンのため、利用者も自由に出入りすることができ、利用者と職員と一緒に調理の下ごしらえを行っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにリクライニングチェア、廊下にはイスを2か所置いている。窓から花を楽しめるように飾っている。気の合った利用者同士が交流を楽しめるように、ホールの席の配置に配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたものや好みのものを持ち込むことをお勧めしており、写真等思い出の品を飾られている方もいる。</p>	<p>エアコンやタンス、棚やベッドが備え付けられており、ベッドは全て電動ベッドを配置している。また、居心地よく過ごせるよう、写真や雑誌等、自宅で使っていた馴染みの品を持ち込み、自由に過ごしてもらっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>転倒につながるような物品の除去、ベッドの高さの調整、居室・トイレの表示など、ご自分の能力を生かして生活できるように支援している。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない